

# はじめに

学校には、みなさんの命を守るためのたくさんの防災設備があります。非常灯や救助袋などは、先生や消防署の人たちがいつでも使えるように点検や訓練を重ねています。けれども、地震や津波はいつ起こるかわかりません。そのため、災害が起きたときに備えて「自分はどう行動すればいいか」を知っていることがとても大切です。たとえば、非常放送設備を使ってどんなことをするのか、救助袋はどう使うのかなどを知っていれば、落ち着いて行動できるはずです。この本では、さまざまな防災設備とその働きについて紹介していきます。学校にある防災設備の知識を身に付けることで、自分や友だちの命を守るための力を付けていきましょう。

危機管理教育研究所代表 国崎信江



## もくじ

耐震補強ブレース	4
非常階段	6
屋外津波避難階段	8
救助袋	12
非常放送設備	16
視覚障害者誘導用ブロック	20
非常灯	22
防災ヘルメット	24
非常錠	26
転倒防止装置	28
もっとある転倒防止装置	30
さくいん	32

# この本の使い方

この本は、学校にある防災設備について、役割や設置場所、使い方などを説明しています。

## 役割

設備のおおまかな役割を説明しています。

## 各部分の名前

設備の部分ごとの名前と役割を説明しています。

## 〇〇のある場所

設備が学校の中のどこにあるかを説明しています。

## 〇〇の使い方

設備の使い方の流れを紹介しています。



QRコードから関連動画集のページを見ることができます。

※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標です。  
※QRコードのリンク先の内容は、削除されたり、変更されたりする場合があります。  
※動画は本を買った人も借りた人も見ることができます。

## 町でも探してみよう

設備が学校以外のどんな場所にあるかを紹介しています。

## 気をつけよう

設備を使うにあたって、注意しなければならないことを紹介しています。

## 〇〇さんのお話

設備の点検や管理、訓練などに関わっている人の話です。





おくがいつなみひなんかいだん

# 屋外津波避難階段



やくわり  
役割

## 津波から避難する

地震が起きたときに、大きな波により海や川の近くに住民たちに危険をもたらすのが津波です。屋外津波避難階段は、津波が発生したとき、高台\*が近くなかったり高台までにげる時間がかかったりする場合に利用する、屋上に避難するための階段です。

校舎の外側にある  
屋外津波避難階段。



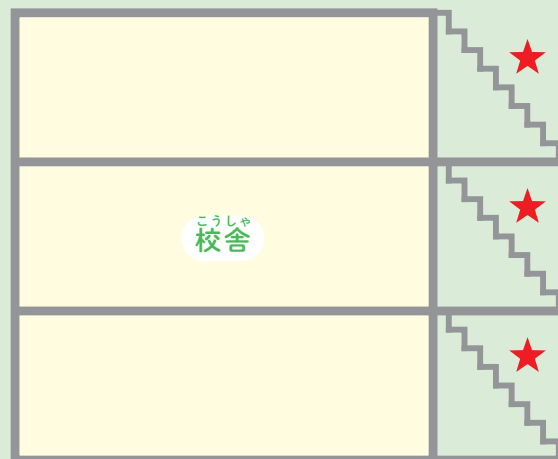
ココにある!

## 屋外津波避難階段のある場所

### 校舎の外側など

屋外津波避難階段は、学校にいる人だけでなく、近くに住んでいる人も避難できるように、校舎の外側に設置されています。

\*高台：山など、ほかの場所よりも高く、平らになっている土地のこと。



## 各部分の名前

### 津波避難階段



多くの方がすばやく安全に避難できるように造られている。お年寄りを両側からささえて上がったとしても、さらにその横を人が一人通れるくらいの幅がある。

階段を上った先は屋上で、この建物では1度に1,000人が避難できる。夜間でも安全に避難できるよう、足元灯が設置されている。

## 津波避難階段の入り口

### 誘導標識

津波避難施設の入り口であることを示す標識。ピクトグラム(→1巻27ページ)で表されている。



### 非常錠 (→26ページ)

この非常錠は緊急のときにはカバーを割ってつまみを回し、かぎを開けるタイプ。

### 屋上



屋外津波避難階段

# 屋外津波避難階段の使い方



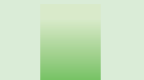
**Step1** 地震から身を守り、避難の準備をする

ゆれが収まったらたおれているものやゆかに散乱しているものに注意しながら、避難を開始しましょう。このとき、周りの人に「津波からにげましょう」と伝えます。



**Step2** 落ち着いて階段を上がる

津波のときには、津波の到達予測時刻までに高い場所に避難することが大切です。近くに高台がない場合、屋外津波避難階段を使って屋上に避難します。この階段は学校にいる人だけでなく、学校の近くに住んでいる人も使用します。



**Step3** 屋上に避難する

津波警報が解除されるまでは建物の中にもどらないようにします。



## 津波が来ることを知る方法は？

津波が来ることは、津波警報・注意報で知ることができます。津波警報・注意報は、テレビ・ラジオやインターネットのニュースなどで伝えられます。海水浴場などでは、津波警報・注意報が出たときに、赤と白の「津波フラッグ」という旗がふられることがあります。これは、聴覚に障害のある人にも津波が来ることを知らせるためのもので、津波フラッグがふられていたら、ふっている人に続いて高いところのにげましょう。



写真提供：(公財)日本ライフセービング協会

## 宮城県名取市立閑上小中学校の阿部さんのお話



閑上地区は土地が低く、周辺にも高台がないため、2011年3月11日の東日本大震災では大きな津波被害を受けました。震災後に建てかえられた新しい校舎は、以前よりも海からはなれた場所に建てられました。校舎の3階と4階は、津波の際の避難場所として指定されていて、屋外津波避難階段は校内に2か所設置されています。

名取市では、震災の教訓から毎月11日を防災学習日として防災のことを学び、日ごろから地震や津波に備えています。

阿部 彩子さん

宮城県名取市立閑上小中学校副校長。この学校は、津波が発生したときの避難場所に指定されており、防災に関する責任者でもある。

屋外津波避難階段